

大阪府立大学第19回留学生日本語弁論大会報告書

URL

<http://hdl.handle.net/10466/00016569>

大阪府立大学

第 19 回留学生日本語弁論大会

報告書

平成 24 年 11 月 3 日(土)
大阪府立大学 学術交流会館



大阪府立大学留学生後援会

目 次

第 19 回留学生日本語弁論大会報告書に寄せて	1
第 19 回留学生日本語弁論大会実施要領	2
出場者および入賞結果一覧	3
弁論要旨	
金賞「相手の文化を理解する力」 アイエドゥン エマヌエル シルベストル オ	4
銀賞「桜の地でにねんとはんとし」 テンナコーン アヌーシャ ヘママリ	6
銅賞「僕が感じる日本の上下関係」 グェン タイン トゥアン	8
奨励賞「留学で見た日本」 関 海喬	10
奨励賞「交流と勇気」 許 柏卉	11
奨励賞「謙譲の恐ろしさ」 周 聖琦	13
奨励賞「より高いレベルの国際交流が求められる時代」 馬 光宇	14
奨励賞「擬態語」 レ バ ルアン	16
第 19 回留学生日本語弁論大会寄附者名簿	18

大阪府立大学

第 19 回留学生日本語弁論大会

報告書に寄せて

第 19 回留学生弁論大会は、白鷺祭の一環として 11 月 3 日に開催され、4 カ国 8 名がスピーチを行いました。レベルの高い発表が多く、留学生の日本人と日本社会を見る眼の鋭さが光っていました。日本語への関心も高く、特に理系博士課程の学生 2 名が、俳句論、擬態語論を面白く論じたことに新鮮な驚きがありました。

本留学生弁論大会は内容や話し方に関する事前チェックや手直しをしません。それにより、テニオハや統語論で間違える者もおります。(本報告書では、最低限の修正を施しています。) その点は、今後検討すべき課題と考えていますが、ここでは内容に着目してお読みいただければ幸いです。

今年、私は出張のためリアルタイムでは聴けずに、後で原稿を読ませてもらいました。原稿だけで判断しても、日本人と社会をしっかりと分析していることがわかります。言葉を交わさずとも心を汲み取る。小さなことにも美を見つける。先輩に学び、後輩を育てる。笑顔の力などへの指摘や、一言言葉をかけることの大切さ等について興味深い発表が続きます。

今年の特徴は、非漢字圏のスピーカーが 3 賞を獲得したことです。現代システム科学域 1 年次の学生は聴く人を惹き付ける声と話術を有し、ベナンの存在を強くアピールしました。りんくうキャンパスの大学院生が参加し、入賞したことも記憶すべき快挙です。先輩・後輩の関係に懐疑的だったものの、クラブ活動を続けるなか、その良さを発見したという発表もなかなか聴き応えがあったようです。それから、日中の政治状況に言及した勇気ある発表もありました。本当に頼もしい留学生たちです。

本大会はロータリークラブ、国際ソロプチミスト堺、堺市、堺高石青年会議所、KoKoC 及び、現役・OBの先生方等のご支援で実現しています。厚くお礼申し上げます。また今回、会長代行を務めてくださった杉村教授、審査員長の大役をお引き受けいただいた竹内学生センター長、大会のMCを務めた国際交流サークルオリオンにも深く感謝します。日本人学生が参加できる体制を整えるべきとの意見もいただいていますので、どうすればよいか皆さんに相談しながら、方策を考えます。ありがとうございました。

大阪府立大学留学生後援会
会 長 寺 迫 正 廣

大阪府立大学

第19回留学生日本語弁論大会

実施要領

1. 目的 大阪府立大学の大学祭（白鷺祭）イベントの一環として位置づけ、留学生の日本語学習を奨励するとともに、広く留学生と日本人相互の国際理解と交流を深める。
2. 日時 平成24年11月3日（土）14：00～16：00
3. 場所 大阪府立大学 C1棟 学術交流会館多目的ホール
（大阪府堺市中区学園町1-1）
4. 概要
 - (1) テーマ 「日本人との交流経験」
 - (2) 弁論者 4カ国8名の留学生
 - (3) 弁論時間 各5分
 - (4) 審査員
堺市 国際課長 小谷 行彦
堺東ロータリークラブ 会長 中野 均
国際ソロプチミスト堺 会長 木村 淳子
大阪府立大学 副学長・学生センター長 竹内 正吉
（審査員長）
大阪府立大学 工学研究科教授 杉村 延広
（大阪府立大学留学生後援会会長代理）
 - (5) 賞
金 賞（1名） 賞状・副賞
銀 賞（1名） 賞状・副賞
銅 賞（1名） 賞状・副賞
奨励賞（5名） 賞状・副賞
5. 主催 大阪府立大学留学生後援会
共催 大阪府立大学
後援 堺市内ロータリークラブ / 国際ソロプチミスト堺
（社）堺高石青年会議所 / 堺市（順不同）
協力 国際交流サークルオリオン
6. 交流会 弁論大会終了後、留学生との交流会を開催
日時 平成24年11月3日（土）16：00～17：00
場所 大阪府立大学 C1棟 学術交流会館サロン
主催 大阪府立大学留学生後援会

出場者および入賞結果一覧

入賞結果	氏名	国籍	学域 学部 研究科	学年	弁論タイトル	日本滞在期間
金賞	アイエドゥン エマヌエル シルベストル オ	ベナン	現代システム科学域	B1	相手の文化を理解する力	3年3ヶ月
銀賞	テンナコーン アヌーシャ ヘママリ	スリランカ	生命環境科学研究科	D2	桜の地でにねんとはんとし	2年6ヶ月
銅賞	グエン タイン トゥアン	ベトナム	工学部	B4	僕を感じる日本の上下関係	5年8ヶ月
奨励賞	カン カイキョウ 関 海 喬	中国	工学部	B3	留学で見た日本	3年
奨励賞	キョウ ハクキ 許 柏 卉	中国	工学部	B3	交流と勇気	4年
奨励賞	シュウ セイキ 周 聖 琦	中国	人間社会学研究科	M	謙譲の恐ろしさ	1年6ヶ月
奨励賞	マ ヨウウ 馬 光 宇	中国	工学部	B3	より高いレベルの国際交流が 求められる時代	4年6ヶ月
奨励賞	レ パ ルアン	ベトナム	工学研究科	D2	擬態語	3年4ヶ月



<金賞> 相手の文化を理解する力



現代システム科学域 1年

アイエドゥン エマヌエル シルベストル オ (ベナン)

皆さん、こんにちは。私は三年前にアフリカの西側にあるベナンから来ました。日本へ来てから半年ぐらいのとき、同年代の男性と知り合いました。優しくていつも元気な神田君です。「やっと日本人の友達ができたと喜んでいました。しかし、私は神田君は判断とか意見とかをはっきり言わないように感じていました。例えば、私が知っているフランス料理のレストランで食事をしていたとき、神田君は時々変な顔をしていました。私は神田君がこの料理が好きじゃないのかなあと思ったので、「おいしい？」と聞いたとき、「そうだね。こんな料理は今まで食べたことはないよ。でも大丈夫。」と言う答えが返って来ました。彼が何を言いたいのか、料理がおいしいのかどうか、何も分かりませんでした。

どうして彼ははっきり言わないのか。私の国の友達だったら、本当にはっきり言うはずですよ。例えば、高校一年生のとき、友達が誕生日のパーティーに招待してくれました。楽しみにしていたパーティーの日に友達の家に着いて、「お誕生日おめでとう。」と言ったか言わないかのうちに「ねえ、エマヌエル、ちょっと聞いて。今日のパーティーにあなたの服は合わないよ。着替えてきてくれない？」といわれました。皆さんはこの話を聞いて驚いたかもしれませんが、私の国ではそのような答えは仲がいい友達に言う普通のことです。それは友達のことを自分のことのように考えているという意味です。ですから、神田君は私のことが好きじゃないのだろうと怒りつつ思っていました。でもしばらくして、ほとんどの日本人は神田君と同じようにはっきり言わないということが分かってきました。最初、この日本人のコミュニケーションのやりかたは、おかしいというよりよくないことだと思いました。私がそう思ったのはどうしてでしょうか。

実は私の国ベナンの大きさは日本の3分の1ぐらいですが、全国に50以上の民族がいます。民族によって言葉や考え方が違うので、私の国ではお互いを理解するために意見をはっきり言うことが大事です。そのベナンの習慣に基づいて、私は日本人の曖昧さがよくないと思っていました。

ところが、日本で生活するうちに大切なことが分かってきました。日本はわたしの国と違ってたくさんの民族がいる国ではありませんから、ほとんどの文化や考え方がたいてい同じで、日本人は昔から相手の心を汲み取る事を得意としてきました。それで、みなまで言わずとも心が通じ合える関係をよしとしてきました。

でも、現代の日本にはたくさんの外国人がいます。ある外国人にとって日本人は、以前の私のように「自己主張をしない」とか「曖昧」と見えるかもしれません。でもそれは、今の私から見ると大きな間違いです。そう思っている外国人は、文化や考え方が違うことを考えずに、相手の日本人に自分の国のコミュニケーションのスタンダードを求めているのです。まず外国人に分かって欲しいのは、日本人が外国人の習慣に合わせる必要はないということです。日本人は自分の国のスタンダードでやるべきです。ですから、外国人の私達は日本語だけではなく日本の文化まで学ぶことが重要です。そうすれば日本人の心が分かるはずで、日本人の曖昧さはよくないことではなく、相手のことを大切にしている証拠であることも分かるでしょう。

また、日本人にも外国人のことを是非学んでいただきたいです。実は日本人の曖昧さを理解できていない外国人はまだたくさんいるので、その人達をもっと簡単に日本の習慣を学べるように、日本人の外国人への理解が重要だと思います。

コミュニケーションの問題は一人とか二人のことではなく、日本人と日本にいる外国人だけの問題でもなく、世界のどこの国でも必ず起こる問題です。なぜなら、現在私達が暮らしている世界はまさに国際社会だからです。それにより、人々が違う国の人や違う習慣の人と会ったり、働いたりするチャンスが以前より多くなると思います。ですから、皆で協力をして、お互いの文化を理解しましょう。そうすれば違う国から来ても、文化が違うことを気にせず、一緒に勉強したり、働いたり、暮らしたりすることがもっと自然な世界になるのではないのでしょうか。

<銀賞> 桜の地でにねんとはんとし



生命環境科学研究科 D2 年

テナナコーン アヌーシャ ヘママリ (スリランカ)

それほど遠い昔ではないけれど、何年か前に、遠い国に一人の少女がいました。彼女は、童謡で初めて聞いたある国のことを夢見ていました。彼女が小学校3年生のとき、彼女はこの国から来た二人の人 ～太郎と佐藤さん～ に初めて会いました。もちろんそれは、英語の教科書の中の話です。彼女は広島と長崎の惨劇について読み、とても悲しくなりました。彼女はまた、「窓ぎわのトットちゃん」を読み、その中で松尾芭蕉の有名な古池の俳句に出会いました。これらのことを通じて、彼女はこの美しい桜の国について、もっとよく知るようになりました。そして彼女は、いつかこの国に行こうと心に決めました。その幼い少女は、今はもう幼くありませんが、彼女の夢の国で、みなさんの前に立ち、こうしてスピーチをしているのです。

私は、スリランカから来た、**Anusha Tennakoon** です。日本に来て、2年半ほどになります。スリランカでは、私は医者でしたが、今はりんくうキャンパスの博士課程2年生です。私は病理学を専攻しています。私の主人も病理学の博士課程3年生です。私たちには、4歳になる娘がいます。これまでの2年半の間、私は日本や日本人に失望したことは一度もありません。それは、私が夢に見、想像した通りでした。日本人は親切で、規律があり、勤勉で、強い意志を持っています。私の先生はとても親切で、今までに出会った最高の先生の一人です。私の研究室の同僚たちも、いつでも私に手を貸してくれます。

私の娘は、保育所に行っていますが、彼女はとてもよく面倒を見てもらっています。彼女の先生たちは、面倒見がよく、よく助けてくれます。はじめは、日本語のことで少し困難もありました。言われていることが何もわかりませんでした。私の主人は、いづらか日本語ができましたので、先生方と日本語で「はい、だいじょうぶ、すみません。」のように話していました。ある日、主人が子どもを保育所に迎えに行ったとき、大きな問題が起きました。先生が何かを言い、主人は「はい、はい、だいじょうぶ。」と言いました。そして私が主人に、先生は何を言ったのと聞くと、主人は知らないと言ったのです。

私は、日本人のしつけについて、とても感心しています。それは、ほかの国にはないもので、日本人は、テクノロジーの開発と並行して、伝統的な価値も保持しています。私は特に、日本の俳句が好きです。ほんの少しの言葉で、自分を表現できるなんて、おどろきです。日本人は、ほんの小さなことにも、美を見つけます。それは素晴らしいことで、日本人を世界でもユニークな国民にしています。私は、私と娘の人生に、日本のすぐれたものを付け加えたいと思います。私の学問を完成させるとともに、私は将来、俳人になりたいと思っています。私にスピーチの機会を与えてくださって、とても感謝しています。このイベントで私を助けてくださったすべての皆さん、それから私に日本語を教えてくださった先生方にお礼を申し上げます。

最後に、自分の家が火事で焼けてしまっても、なおかつ桜の花を美しいと思う勇気と忍耐を持った人の俳句を紹介します。私もまたそのような心を持ちたいと思います。原爆や津波の大惨事の後でもなお立ち上がる日本人の精神は、何よりも、立花北枝の次の俳句に詠まれていると思います。

焼けにけり
されども花は
散りすまし

<銅賞> 僕が感じる日本の上下関係



工学部 4年

グエン タイン トゥアン (ベトナム)

皆さんこんにちは。私はベトナムから来ました **Nguyen Thanh Tuan** と申します。日本に来て今年で 5 年目になりました。大学では工学部で機械工学を専攻しています。それ以外に体育会ボート部にも所属しています。このボート部でたくさんの貴重な経験をさせていただきました。その経験から日本のことをより深く理解できました。

ボート部は体育会なので比較的上下関係が厳しくされていると思います。特に先輩後輩の上下関係です。ベトナムでは日本と違って先輩後輩よりも年齢で上下が決まることが多いです。また日本のようにはっきりとした敬語や決まりがありません。それに比べて日本は、年齢よりも先輩後輩で上下関係が決まります。決まりなども多いと感じました。

年齢でいうと僕は日本語学校に 2 年間通っていましたが、現役で入学する 2 回生の方よりも年上で、3 年の方とは同じ年です。にもかかわらず敬語を使わなければなりませんし、多くの決まりも守らなければなりません。極端に言うと先輩を尊敬しなければなりません。日本のことをあまり理解できなかった僕はとても違和感を感じていました。

しかし、郷に入っては郷に従えということで従いました。敬語とため口の使い分けも結構大変でしたが、がんばりました。多くの決まりなどもしっかり守ろうとしました。すると自然に先輩たちのいいところも見えてきました。親切にボートのことを教えてくれる先輩がいました。僕の間違った日本語を修正してくれた先輩もいました。冷静に物事を判断できる先輩もいました。ボートを漕ぐのはあまりうまくなかったがボートに関する知識やボートをメンテナンスするのはとてもすごい先輩もいました。

そして、学年が上がって僕も先輩になりました。先輩になって今度は逆に尊敬される立

場になります。尊敬されると感じると悪いことではいけない！と思ったりしました。時々遅刻していた僕は遅刻しなくなりました。また自然に後輩もかわいく見えて、ボートをちゃんと教えよう、ちゃんと面倒見てあげようと思うようになります。

そして3年の夏に僕は主将になってしまいました。今度はボート部の全体のトップです。ボート部はOB・OGさんからもたくさん援助をいただいています、学生主体でやっていますので主将の僕は結構権力がありました。基本的に僕が決めたことが守られます。意見を求められることも多かったです。逆に今度は僕は、適当に発言してはいけない、適当に物事を決めてはいけないと思うようになります。

ベトナムでは時々上司が言っていることを部下が守らないこともあったりします。新聞を読むとこのようなことで深刻な問題を起こすこともあると分かります。このように相手に敬意をもって接すると、自然に相手のいいところが見えます。お互い尊敬し合って接すると、信頼関係も築けて物事がうまくいきます。お互い信頼する！それが日本人は大震災の中でも混乱が起こらない原因だと僕は思います。新入部員はとりあえず上回生を尊敬することが、知らない人をとりあえず尊敬することにつながります。大震災の中でそれほどの冷静さを保つことは、僕は日本人しかできないと強く信じます。

日本は技術流出で悩まされていますが、僕は日本の技術を盗もうとも思いませんし盗める力もないと思いますが、このような文化を盗みたいと思います。

<奨励賞> 留学で見えた日本



工学部 3年

関 海 喬 (中国)

私は、工学部化学工学科 3 回生の関海喬です。出身は中国東北部の瀋陽で、日本に留学して今年で 3 年になります。今は、大阪府立大学の中国人留学生学友会の会長をつとめています。

私が日本への留学を決めた理由は、私の地元・瀋陽は中国有数の工業地域であり、昔から工業系の分野に興味があったので、技術先進国である日本の大学の工学部へ進学したいと思うようになったからです。日本への留学の準備の際は、日本語の勉強だけではなく、**TOEFL** や数学、物理、化学などの専門科目の勉強もしなければならず、とても大変でした。しかし、苦勞の末、この大阪府立大学化学工学科への入学を果たしました。留学試験や大学入試のときの苦しい経験は、私を強くさせてくれました。

現在、私は化学工学科の 3 回生として、毎日さまざまな勉強にはげんでいます。1 回生のころは、慣れない日本語での専門的な授業やレポートに苦しみましたが、同じ学科の多くの日本人の友人や先生方のサポートのおかげで、今でもこうして勉強を続けることができます。友人や先生方には本当に感謝しています。また、入学前は不安だった、日本人の学生との交流も、当初はクラスのみなどと会話することもなかなか出来ず、不安の連続でしたが、今では、多くの仲の良い友人・仲間たちに囲まれ、毎日とても充実しています。

日本人の学生は、私が勉強で困っているときに親切に助けてくれるし、また、先生方も勉強や進路の悩みになんでも相談に乗ってくれるので、学生生活に対する不安はほとんどありません。また、学業以外にも、日本での生活経験で様々なことを学びました。普段の生活の中での多くの日本人との交流経験を通じて、日本の文化や生活について知り、日本で初めてやったアルバイトでは、外国人として色々と厳しい環境に立たされながらも、自立心を養うための良い経験が出来ました。また、大阪の人々はみんな優しく、良い人ばかりで、このことも私にとっては、とてもありがたいことでした。このように、日本での私

の留学生活は、周りの親切なたくさんの方々の日本人の方々のおかげで、非常に充実しており、日本に留学をして本当に良かったと思っています。

最近、ニュースやテレビで、日本と中国の関係悪化が多く報じられていますが、私は、自分の留学経験の中で、たくさんの方々の優しさに助けられて、頑張ることができました。だから、今の日中関係に関する問題を見ていると、心がつらいです。私は、たとえ微力であろうとも、自分自身の日本人との交流経験から感じた、本当の日本人の姿を、もっと多くの中国人に伝えていきたいと思っています。

最後に、私は、今後も留学生生活を精一杯充実させるとともに、自分の将来の夢の実現に向けて、強い気持ちを持って、頑張って勉強を続けていきたいと思っています。また、これから先、色々な問題や困難があるかもしれませんが、たくさんの方々の頼れる仲間・先生方とともに乗り越えていけると信じています。そして、この日本での留学が無事成功に終わるよう信じています。

ご清聴ありがとうございました。

<奨励賞> 交流と勇気



工学部 3年

許 柏卉 (中国)

皆さんこんにちは、私は許 柏卉と申します。中国の吉林省から参りました。4年前に日本に来て、現在は工学部マテリアル工学科で3年生として勉強しています。よろしくお願ひします。

今日は、交流と勇気という話をさせていただきます。4年前、高校を卒業してから、日本に来ました。飛行機が関空についた際、この新しく、全く分からない世界を直面すること

は自分しかいないことに気づきました。心は不安に満ちていました。

初めて接した日本人は専門学校を担当の先生でした。最初の交流と言えば、自己紹介でしたが、なぜかと言うととても緊張し、自分でさえ何も知りませんでした。ひらがなしかわからなかった私はその時、すごく恥ずかしくて、机の下に潜りたかったのですが、先生が「許 柏 卉さんですよ。これから一緒にがんばりましょう！」って言うてくれました。当時の私はその言葉にすぐ反応するはずがなかったのに、先生の優しい笑顔を見て、「はい、頑張ります！」自らの口からスムーズに言い出しました。これは初めての交流、初めての日本人との会話、初めての笑顔でした。それから、私の座右の銘である「笑顔は世界の標準語」という言葉が生まれました。

その後、日本語を勉強しながら、日本語が早く話せるために、初めてのアルバイトも始めました。日本語を速く言われると、すごく理解が難しい当時の私にとって、かなりストレスが溜まっていました。たまにバイトから家に帰って、一日の疲れとホームシックの辛さをおりませせてしまって、泣くことも何回もありました。その時、一緒に働いた人の中で、一人の女の子がいて、いつも私の仕事を手伝ったり、話かけてくれたりしました。でも、間違えることを恐れて、人に話かけることが怖かったです。彼女にありがとうぐらいしか言えませんでした。でもずっと彼女と友達になりたい思いがあって、ある日、やっぱり勇気を出して彼女を誘って一緒に中華料理を食べて、いろいろな話をしました。全然スムーズな日本語ではなかったのに、とても気が合って意外に彼女に通じて、言葉で言えない幸せが心の中に生まれました。これをきっかけに彼女と仲良くなりまして、今年の夏休みも一緒に上海に行って遊んできました。話せないなら話せないなりに、相手に対し笑顔で接し、前向きに会話をする心を心がけるようになりました。

そして、今日こちらで一番言いたいのは、私たちはせっかく日本に来て、せっかく日本の大学で留学して、もっと広い世界を知る為に、もっと充実した毎日を過ごせるために、青春に叛かず、勇気を出してみんなとスムーズにコミュニケーションが取れるよう、日本語の勉強を頑張りましょう！

<奨励賞> 謙譲の恐ろしさ



人間社会学研究科 M1 年

周 圣琦 (中国)

夏を過ぎ、空が高くなり、顔に触れる風が寒くなる頃になって、高野山もだんだん紅葉に赤く染めるこの季節は、私が一年中で一番好きな季節です。私は日本に来てもう一年半になりましたが、そういう自覚がぜんぜんなく、「光陰矢のごとし」という言葉を思い出しました。初めて日本に来た時の自分は、臆病で、話す声も小さかったです。今思うと、そんな自分に笑い出すかもしれません。

私はずっと自分のことを幸運の人だと思っています。今まで、すべてのことは順調とは言えませんが、思うままに進んでいて、初めての外国生活もすぐ慣れてきました。周りの日本人たちは確かに謙遜で礼儀正しくて、注意すべきことや、楽しいこと、いろいろなことを教えてくれました。

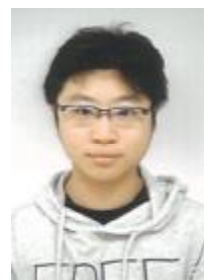
初めての三ヶ月間は本当に何も考えずに楽しくやってきました。そして三ヶ月後、私はアルバイトを始め、本当の意味で、この国の社会に馴染もうとしました。でも最初のときは、うまく話すこともできないほどの緊張でした。私はレジの仕事を頼まれていたので、ずっとレジの後ろに立っていましたが、他のスタッフが出入りする時必ず「ちょっとごめん」、「すみません」って声をかけてきました。ごく普通のことですが、「あ、私また邪魔になったのかな」と私は不安になりました。なら私も他のスタッフと同じように、ずっとレジに立ってないで、邪魔にならないよう商品の陳列なども手伝おうかと思い、レジを離れてしまったが、すぐ「すみません、レジ頼む」と呼び出されました。私は迷ってしまいました。一体どうすればいいのかわからなくなりました。邪魔になりたくないし、サボっているとも思われたくないです。人に嫌われるのが嫌で、人に迷惑をかけるのも避けたいあげく、「すみません」という言葉を聞くだけで怖くなりました。もちろん、みんなは何も言わなかったのですが、それこそもっと恐ろしいと感じました。

日本人は本当に何かあったらすぐ「すみません」って謝ります。でも大体のときはあい

さつみたいなものだと、私は一年ぐらい経って、これに気づきました。私の不安は他人に迷惑をかけたくないという自惚れかもしれません。人は社会という大きな群れの中に生きている限り、他人とのかかわりはどうしても避けられないと思います。でしたら「迷惑」も絆の一つかもしれません。今の私は「すいません」を聞いても、笑って向けられます。三輪山を登ったとき、すれ違った人たちに「すいません、こんにちは」という一言からもらった元気は、登り続ける動力になったことを今でもはっきり覚えています。謙譲で親切な日本人たちに本当に心を込めて「ありがとう」って言いたいです。

ご清聴ありがとうございました。

<奨励賞> より高いレベルの国際交流が求められる時代



工学部 3年

馬 光宇 (中国)

皆さんこんにちは、私は中国からの留学生、馬光宇と申します。現在マテリアル工学科3年生として勉強しています。どうぞよろしくおねがいします。

去年、友達の誘いを受け、幸運なことに神戸大学のある研究室内で行われた「なぜ中国人が交通機関を利用するとき列に並ばないのか」という非常に興味深い問題をテーマとしたディベートを見学することができました。一見「まあ、そういえば俺も並んでないな」という答えしか思いつかないテーマに、情熱がほとばしるような「あと5分間続いたら喧嘩になるんじゃないか」と思うくらい素晴らしいディベートを拝見しました。

その様々な意見の中、特に本日皆さんにご紹介したいのは、ある博士前期の学生のこの問題についての考えです。彼はこう言いました。「中国は建国するのが遅く、他の地域はともかく、高層ビルが立ち並ぶ著しい発展を遂げている東沿岸部でも、きちんとインフラが整っていない所が多い。実際に中国の街を歩いてみると、地下鉄のために掘られたトンネ

ルや道路を敷設（ふせつ）する工事現場がそういった所のあちこちに存在しているのが現実です。路面状況や込み具合そして工事現場の影響を受け、バスが約束通りの20分に一回来るかどうか分からない。人が多いため、次の電車に乗れるかどうか分からない。でも遅刻したら先生に怒られる、上司に怒られる、給料も減らされる可能性もあります。それは嫌ですよ。さ！この状況を目の前にしてあなたならどうしますか？そう！列かルールかなんか全部忘れちまえ、力勝負の時間だ！とりあえず、ドアの一番前に立つ人が勝つということですね！」

この考えは社会現状、そして客観的にその現状に対し人が取る自然な行動に基づいていることに私は感心しました。その意見のあと、きちんとルールを守ると言われる日本人との比較もされていて、実に素晴らしい意見だとその日高い評価を受けました。

日本に来てから今年で4年目になり、毎日たくさんの日本人と楽しい交流をしています。彼らにとって外国人という身分である私との会話の中で、文化に関するような内容の会話も決して少なくはありません。その話相手のなかに、ひとりなんでも話せるような友人ができました。それは去年のもう一つ幸運なことでもあります。彼と知り合ったきっかけになったのは、大阪府立大学の交換留学プログラムを通じたオーストラリアでの一ヶ月の語学研修の最後の日の、彼の想像を超えた行動でした。その日留学メンバーたちがブルーマウンテンという山に登ることにしました。事前にちゃんとやることを把握していないせいなのかどうか分からないですけども、かなり険しい山道に、彼がなんとスーツにネクタイ、そしてサラリーマンの皮靴いわゆるシティウェアで立ち向かい、その結果、4時間を予定していた道なのに、少し前膝に怪我をしたせいで早く歩けない私とシティシューズを履いていた彼の二人はなんと7時間もかかりました。でも、途中で私は人生今まで最高だと思える会話がありました。二人で食べ物や若者言葉やアニメ、テレビ番組、ファッションそして法律、教育、政治、歴史を含め様々な分野における日本と中国での違い、そして他の国との違いについて語りまくり、お互い自分が持っている知識に基づいた意見を交換し、ぶつけ合い、激しい議論もありましたが、とても気持ちよかったです。今でもよく彼と会ってビールを片手に楽しい会話をしています。それで日本の美味しいビールをさらに美味しく感じます。

たくさんの日本人との会話をし、私に一つの考えが生まれました。違う環境のなかで違うものを学び、生まれてからずっと何十年間も教わってきたものですから、それを真実だと信じるのが普通です。その様々の文化によって生じた違いを無理やり一つにまとめるのは至難の作業で、ある意味決していいこととも言えません。人それぞれ身につけた異なった考えと知識を国際交流を通じて積極的に他の人とシェアすることによって、自分が何かの判断をする前に相手の現状、相手の国の国情と彼らが歩んできた道も参考の一部としてうまく利用することが出来れば、きつともっと平和な方向に進むはずだと考えます。なぜ

ならば、それは人々が目指すただひとつのものですから。

ご清聴どうもありがとうございました。

<奨励賞> 擬態語



工学研究科 D2 年

レ バ ルアン (ベトナム)

先日大学の池の周りを一人で「とことこ」歩いていると、蛇が「によろによろ」歩いていました。蛇が、「ぐにゃぐにゃ」動くのをみて、私の体は「ぞくぞく」しました。蛇は「ピタッ」と止まって、「くるっ」と首を回し、「ぎょろっ」と私をみて「シャー」といいました。私はそれをみて、「ひやひや」、「どきどき」して、汗が「たらたら」垂れて、足が「がくがく」しました。

さて今、私はあえてたくさんのお音を使いました。日本語がもつこれらの音は私のスピーチのメインです。

日本語には**2種類**の音があります。それは、擬音語と擬態語です。実際の音や声を真似た言葉を擬音語といいます。たとえば猫の鳴き声は「ニャーニャー」、人のいびきは「ぐーぐー」といいます。

一方、人や物の様子を表す言葉を擬態語といいます。たとえば、周りを見るときに「きょろきょろ」と言ったり、スマイルを見せるとき「にこにこ」と言ったりします。私は日本語を学ぶにあたってこの擬態語が大変面白いと思っています。英語にもほかの言語にも擬態語はありません。

初めて聞いたとき、音のないものに音を付けるという考えはばかばかしいと思いました。

雲は「ふわふわ」とは言いませんし、光は「ぴかぴか」とは言わないからです。しかし、ある日地震の後にテレビでニュースを見ていたとき、アナウンサーが「ぐらぐら」しましたと言いました。私はびっくりしました。なぜならとても大切な場面でも擬態語は使われているからです。

興味を持って調べてみると、いくつかの擬態語にはいろいろな意味があり、使うときには気を付けなければならないと知りました。私が擬態語を上手に使うと、日本人のみんなが喜んでくれます。それは日本語を話す勇気となり、自信となります。日本語をぺらぺら話せるようになるためには擬態語はなくてはなりません。それに日本語の勉強がもっと楽しくなります。そして日々少しずつ日本人の心に近づいていることを実感します。

ありがとうございました。

大阪府立大学
第 19 回留学生日本語弁論大会
寄附者名簿

堺市内 13 ロータリークラブ

- | 堺ロータリークラブ
- | 堺東ロータリークラブ
- | 堺北西南西ロータリークラブ
- | 堺泉ヶ丘ロータリークラブ
- | 堺北ロータリークラブ
- | 堺南ロータリークラブ
- | 堺中ロータリークラブ
- | 堺西ロータリークラブ
- | 堺おおいずみロータリークラブ
- | 堺フェニックスロータリークラブ
- | 堺青陵ロータリークラブ
- | 堺東南ロータリークラブ
- | 堺フラワーロータリークラブ

国際ソロプチミスト堺（団体および個人）

社団法人 堺高石青年会議所

（順不同）

大阪府立大学
第 19 回留学生日本語弁論大会
報告書

大阪府立大学留学生後援会
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号
大阪府立大学 国際交流課
電話 072-254-8142 FAX 072-254-8145